

特定外来生物

同定マニュアル

■ 鳥類

カナダガン *(Branta canadensis)*

シリアカヒヨドリ *(Pycnonotus cafer)*

ガビチョウ *(Garrulax canorus)*

ヒゲガビチョウ *(Garrulax cineraceus)*

カオグロガビチョウ *(Garrulax perspicillatus)*

カオジロガビチョウ *(Garrulax sannio)*

ソウシチョウ *(Leiothrix lutea)*

カナダガン

分類: カモ目カモ科

学名: *Branta canadensis*

英名: Canada Goose

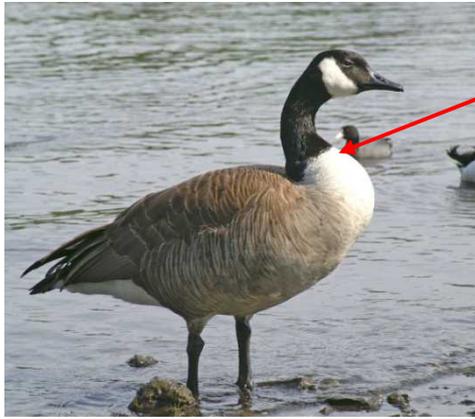
和名: カナダガン

原産地と分布: 北アメリカ原産。越冬のためメキシコへ渡る亜種もいる。移入された個体がイギリスやフィンランドなどのヨーロッパ諸国やニュージーランド、オーストラリアなどに定着している。

未判定外来生物: ブランタ属の全種(カナダガン、シジュウカラガン、ヒメシジュウカラガン、コクガンを除く)。

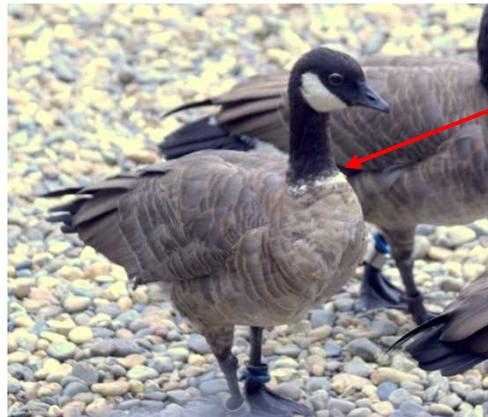
種類名証明書添付生物: ブランタ属の全種

形態的特徴: 全長最大110cm、体重2.3~6.8kg、大型のガンの仲間。頭部から首にかけて黒色。頬から喉にかけて特徴的な白斑がある。上背面は黒褐色、胸から腹部は灰褐色。日本に冬鳥として飛来するシジュウカラガンよりも大型で、嘴や首が長く、首の付け根部分に白色のリングがないという特徴がある。



首の付け根に白色のリングがない

形態的に類似した種との識別点



首の付け根に白色のリングがない

●シジュウカラガン

カナダガンの亜種とされていたこともある。色彩や模様がよく似ているがカナダガンよりも小型で、嘴や首が短く、首の付け根に白色のリング模様がある。

特記事項: カモ目カモ科ブランタ属は、コクガン、カナダガン、シジュウカラガン、カオジロガン、アオガン、ハワイガンの6種(本マニュアルでは「The Howard and Moore Complete Checklist of the Birds of the World: Volume 1 Non-passerines (Howard, Richard., Edward C. Dickinson 2013)」を分類の準拠文献とした)が知られている。そのうち、コクガンとシジュウカラガンは日本にも飛来する。アオガンとハワイガンは、IUCNのレッドリストで絶滅危惧種に指定されている。

シリアカヒヨドリ

分類:スズメ目ヒヨドリ科

学名: *Pycnonotus cafer*

英名: red-vented bulbul

和名: シリアカヒヨドリ

別名・流通名: シリアカコウラウン、クロコウラウン

原産地と分布: パキスタン、砂漠地帯を除いたインド
全域、ネパール、中国南部、バングラデシュ、ブータ
ン、ミャンマー、タイ北部

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: シロガシラ属の全種

形態的特徴: 全長19~20cm、体重28~40g。雌雄同色で、虹彩は茶色で嘴と足は黒色。全体に暗茶色で鱗状の模様がある。頭部は黒色で、ふさふさした冠羽がある。背面は茶色で淡色の羽縁がある。腰部は白色、胸部は背面と同様、淡色の羽縁を持つ茶色で、腹面に行くほど淡色となる。尾羽は黒色で先端部分が白色。尻と下尾筒は明るい赤色で、和名や英名の由来となっている。



尻と下尾筒にある明るい赤色が目立つ。

写真提供: 川上和人

形態的に類似した種との識別点: 類似している種は認められない

特記事項: 日本では、観察例があるが定着はしていない。海外では、太平洋諸島のフィジー、サモア、トンガ、ハワイ諸島のオアフ島、東アラブのクウェート、カタール、オマーン、フランス領ポリネシアなどで導入、定着が確認されている (Lever, 1987; 自然環境研究センター, 2008; GISD)。

国際自然保護連合 (IUCN) の種の保全委員会が定めた「世界の侵略的外来種ワースト100」に選定されている。

ガビチョウ

分類: スズメ目チメドリ科

学名: *Garrulax canorus*

英名: Hawamei, Melodius laughing thrush, Chinese thrush

和名: ガビチョウ

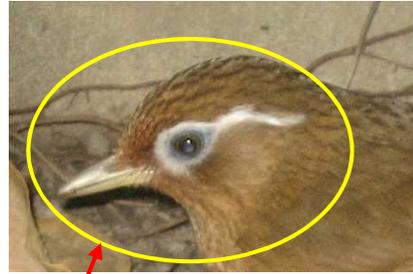
別名・流通名: ガビチョウ

原産地と分布: 中国南部(揚子江溪谷)からベトナム北部、ラオス北東部にかけて、海南島の山間部、台湾

未判定外来生物: チメドリ科の全種(ガビチョウ、カオジロガビチョウ、カオグロガビチョウ、ヒゲガビチョウ、ソウシチョウを除く)。

種類名証明書添付生物: チメドリ科の全種

形態的特徴: 全長21~24cm、ツグミ大の鳥。全体的に明るい茶色で、頭頂部や後頸、喉、胸などに暗褐色の縞模様がある。尾羽は黒褐色。嘴と肢は暗黄色。目の周りから後頸に伸びた白色の模様が目立つ。オスとメスとで体の大きさ、羽色に違いはほとんどない。



嘴は暗黄色。目の周囲から後頸に伸びた白色の模様がよく目立つ

形態的に類似した種との識別点



● **カオグロガビチョウ**
嘴は黒色。目の周囲全体が黒色をしている。



● **カオジロガビチョウ**
嘴の色は灰褐色。眉から目の前を通り、頬へとつながる淡黄白色の模様が特徴。



● **ヒゲガビチョウ**
嘴は黒色から鈍い黄茶色。下嘴はやや白っぽい。眼先、眉斑、頬、耳羽は灰色かかったバフ白色。眼の後方に伸びる黒色の過眼線。

写真提供: 自然環境研究センター(ヒゲガビチョウを除く)

特記事項: スズメ目チメドリ科は、49属273種(「The Howard and Moore Complete Checklist of the Birds of the World Revised and enlarged 3rd Edition (Howard, Richard., Edward C. Dickinson 2003)」に準拠)からなり、スズメ目の中でも小型で多くの種を含むグループの一つである。形態は様々だが、短く丸みのある翼と長い尾羽、短い嘴、強靱な足を持つものが多い。地味でさえない茶色をした色彩をもつ種がほとんどであるが、一部には際立った模様や非常に明るい色彩をした種も見られる。アフリカとアジア地域に広く分布し、森林や林縁部、低木帯、草地、砂漠周辺から熱帯雨林の奥地まで様々な環境に適応している。なお、日本国内にはチメドリ科に属する在来種は生息しないが、日本鳥類目録改訂第6版(2000)には、迷鳥としてチメドリ科のヒゲガラ(*Panurus biarmicus*)が記録されている。

ヒゲガビチョウ

分類: スズメ目チメドリ科

学名: *Garrulax cineraceus*

英名: Ashy Laughing Thrush

和名: ヒゲガビチョウ

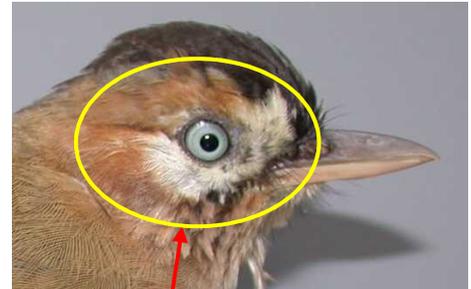
別名・流通名: ヒゲガビチョウ

原産地と分布: インド北東部、ミャンマー西部・北東部、中国西部・南部・中部

未判定外来生物: チメドリ科の全種(ガビチョウ、カオジログビチョウ、カオグログビチョウ、ヒゲガビチョウ、ソウシチョウを除く)

種類名証明書添付生物: チメドリ科の全種

形態的特徴: 全長21~24cm、ツグミ大の鳥。頭上から後頸にかけてと上背上部の一部は黒色。背面はバフみのある灰茶色。上尾筒と腰部はわずかに青白い。風切羽の大部分は黒色。三列風切羽には黒色のサブターミナルがあり先端部は白色。尾羽は赤みがかった灰茶色で広い黒色のサブターミナルがあり、先端部は白色。オスとメスとで羽色に違いはほとんどない。若鳥は全体的により赤みが強い。



眼先、眉斑、頬、耳羽は灰色かかったバフ白色。眼の後方に伸びる黒色の過眼線により二分される。

写真提供: (株)鳥類環境 片岡宣彦

形態的に類似した種との識別点: あまり類似している種は認められないが、同マニュアル中のガビチョウ及びカオグログビチョウの頁を参照されたい。

特記事項: スズメ目チメドリ科は、49属273種(本マニュアルでは「The Howard and Moore Complete Checklist of the Birds of the World Revised and enlarged 3rd Edition (Howard, Richard., Edward C. Dickinson 2003)」を分類の準拠文献とした)からなり、スズメ目の中でも小型で多くの種を含むグループの一つである。形態は様々だが、短く丸みのある翼と長い尾羽、短い嘴、強靱な足を持つものが多い。地味でさえない茶色をした色彩をもつ種がほとんどであるが、一部には際立った模様や非常に明るい色彩をした種も見られる。アフリカとアジア地域に広く分布し、森林や林縁部、低木帯、草地、砂漠周辺から熱帯雨林の奥地にまで様々な環境に適応している。なお、日本国内にはチメドリ科に属する在来種は生息しない(日本鳥類目録改訂第6版(2000)には、迷鳥としてチメドリ科のヒゲガラ(*Panurus biarmicus*)が記録されている)。

カオグロガビチョウ

分類: スズメ目チメドリ科

学名: *Garrulax perspicillatus*

英名: Masked laughing thrush

和名: カオグロガビチョウ

別名・流通名: カオグロガビチョウ

原産地と分布: 中国南部からインドシナにかけて

未判定外来生物: チメドリ科の全種(ガビチョウ、カオジロガビチョウ、カオグロガビチョウ、ソウシチョウを除く)。

種類名証明書添付生物: チメドリ科の全種

形態的特徴: 全長28~31.5cm、ヒヨドリ大の大きさ。全体的に灰褐色で、目の周囲は黒色。頭頂、頸、喉、上胸は灰褐色で、背は鈍い褐色。オリーブ褐色の尾は円筒状で長く、下尾筒は明るい茶褐色。オスとメスとで体の大きさ、羽色に違いはほとんどない。

目のまわりが大きく黒い



明るい茶褐色

形態的に類似した種との識別点



●アカハラ

胸から腹に茶褐色。顔全体が黒色の亜種オオアカハラには注意



●シロハラ

茶褐色の部分や顔の黒色は全くない。頭部や背面が灰褐色でカオグロガビチョウと似ている。



●ヒヨドリ

大きさ、頭部や背面の色彩がカオグロガビチョウと似ている。ただし、顔は赤褐色の斑紋。

特記事項: スズメ目チメドリ科は、49属273種(本マニュアルでは「The Howard and Moore Complete Checklist of the Birds of the World Revised and enlarged 3rd Edition (Howard, Richard., Edward C. Dickinson 2003)」を分類の準拠文献とした)からなり、スズメ目の中でも小型で多くの種を含むグループの一つである。形態は様々だが、短く丸みのある翼と長い尾羽、短い嘴、強靱な足を持つものが多い。地味でさえない茶色をした色彩をもつ種がほとんどであるが、一部には際立った模様や非常に明るい色彩をした種も見られる。アフリカとアジア地域に広く分布し、森林や林縁部、低木帯、草地、砂漠周辺から熱帯雨林の奥地にまで様々な環境に適応している。なお、日本国内にはチメドリ科に属する在来種は生息しない(日本鳥類目録改訂第6版(2000)には、迷鳥としてチメドリ科のヒゲガラ(*Panurus biarmicus*)が記録されている)。

カオジロガビチョウ

分類: スズメ目チメドリ科

学名: *Garrulax sannio*

英名: White-browed Laughing thrush

和名: カオジロガビチョウ

別名・流通名: カオジロガビチョウ

原産地と分布: インド東北部から中国中・南部、ミャンマー北東部、ラオス北部、ベトナム北部にかけて

未判定外来生物: チメドリ科の全種(ガビチョウ、カオジロガビチョウ、カオグロガビチョウ、ソウシチョウ)。

種類名証明書添付生物: チメドリ科の全種

形態的特徴: 全長22~24cm、ツグミ大の鳥。全体的に褐色で、頭頂部および下腹部、尾羽は鮮やかなこげ茶色。眉と頬は淡黄白色で目の前でつながり、特徴的な模様を形成する。オスとメスとで体の大きさ、羽色に違いはほとんどない。



眉から目の前を通り、頬へとつながる淡黄白色の模様が特徴

形態的に類似した種との識別点: あまり類似している種は認められないが、同マニュアル中のガビチョウ及びカオグロガビチョウの頁を参照されたい。

特記事項: スズメ目チメドリ科は、49属273種(本マニュアルでは「The Howard and Moore Complete Checklist of the Birds of the World Revised and enlarged 3rd Edition (Howard, Richard., Edward C. Dickinson 2003)」を分類の準拠文献とした)からなり、スズメ目の中でも小型で多くの種を含むグループの一つである。形態は様々だが、短く丸みのある翼と長い尾羽、短い嘴、強靱な足を持つものが多い。地味でさえない茶色をした色彩をもつ種がほとんどであるが、一部には際立った模様や非常に明るい色彩をした種も見られる。アフリカとアジア地域に広く分布し、森林や林縁部、低木帯、草地、砂漠周辺から熱帯雨林の奥地にまで様々な環境に適応している。なお、日本国内にはチメドリ科に属する在来種は生息しない(日本鳥類目録改訂第6版(2000)には、迷鳥としてチメドリ科のヒゲガラ(*Panurus biarmicus*)が記録されている)。

ソウシチョウ

分類: スズメ目チメドリ科

学名: *Leiothrix lutea*

英名: Red-billed leiothrix, Peking robin

和名: ソウシチョウ

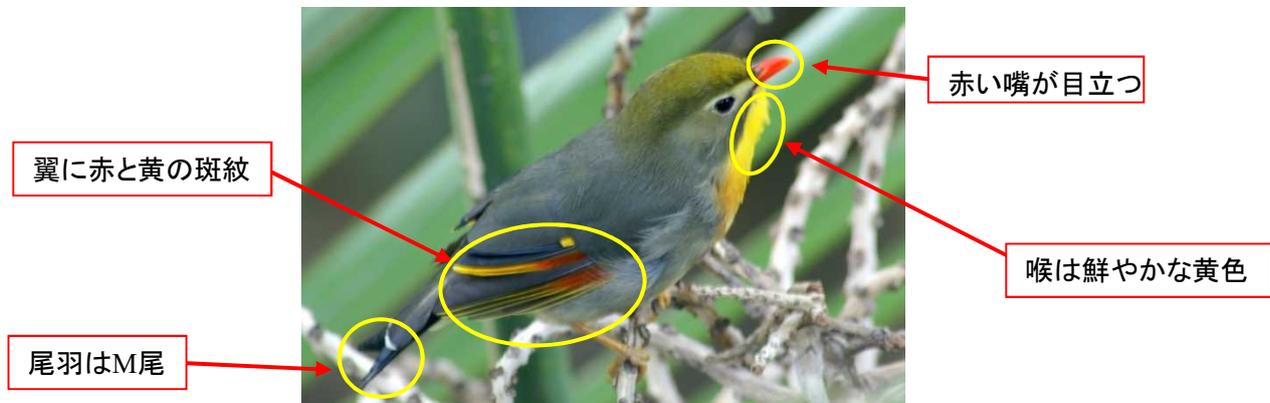
別名・流通名: ソウシチョウ

原産地と分布: ヒマラヤ西部からミャンマー南西部・北西部、インドのアッサム州南部からベトナム北東部、中国中部から南東部にかけて

未判定外来生物: チメドリ科の全種(ガビチョウ、カオジロガビチョウ、カオグロガビチョウ、ソウシチョウを除く)。

種類名証明書添付生物: チメドリ科の全種

形態的特徴: 全長14~15cm、スズメ大の大きさ。体色は暗緑色だが、眉斑から頬は薄い黄色、のどは黄色で胸は濃いオレンジ色、翼に黄色と濃い赤の斑紋があり、嘴は赤色という鮮やかな色彩を持つ。オスとメスとで体の大きさ、羽色に違いはほとんどない。



形態的に類似した種との識別点



●メジロ

頭部、喉の色彩がソウシチョウと同じ。嘴は黒色で、尾羽はM尾ではない。



●カワラヒワ

翼の黄色の斑紋とM尾がソウシチョウと似ている。嘴は淡い肉色で、太短い。



特記事項: スズメ目チメドリ科は、49属273種(本マニュアルでは「The Howard and Moore Complete Checklist of the Birds of the World Revised and enlarged 3rd Edition (Howard, Richard., Edward C. Dickinson 2003)」を分類の準拠文献とした)からなり、スズメ目の中でも小型で多くの種を含むグループの一つである。形態は様々だが、短く丸みのある翼と長い尾羽、短い嘴、強靱な足を持つものが多い。地味でさえない茶色をした色彩をもつ種がほとんどであるが、一部には際立った模様や非常に明るい色彩をした種も見られる。アフリカとアジア地域に広く分布し、森林や林縁部、低木帯、草地、砂漠周辺から熱帯雨林の奥地にまで様々な環境に適応している。なお、日本国内にはチメドリ科に属する在来種は生息しない(日本鳥類目録改訂第6版(2000)には、迷鳥としてチメドリ科のヒゲガラ(*Panurus biarmicus*)が記録されている)。